

平成20年度 大学振興会研究奨励補助金報告書

1. 研究課題名

自動車教習所における運転適性検査と運転技能診断の関連の検討

所属学部： 文化情報学部 職名： 教授 研究代表者氏名： 谷口俊治



3. 研究成果の概要 (1, 200字程度で記入。)

○ 研究経緯の概要

本研究の実施にあたって、自動車教習所に入学する直前の高校生及びその前段階の中学生について、彼らの自転車運転行動の分析が自動車の運転適性検査と運転技能診断との関連性の検討に関して基礎的な資料となると考え、まずその分析結果を「交通心理学研究」雑誌に公表して確定することとした。なお、投稿論文は、同雑誌の次号に掲載予定である。一方、運転適性検査自体の実施実態について、その背景を含めて自動車教習所の指導員から聞き取りを行い、自動車教習所より提供される同検査及び運転技能診断のデータのフォーマットを確定し、データの受け渡しまでを行った。その他、自動車教習所におけるメディアコンテンツ（悲しみの映像）の活用と運転技能診断におけるドライブレコーダの活用についても検討を行った。

○ 研究打合せ記録

1. 平成20年9月8日 滋賀県自動車教習所谷口嘉男氏

「中高生の自転車利用」に関する調査データの「交通心理学研究」雑誌への発表と、本補助金の研究テーマである「自動車教習所における運転適性検査と運転技能診断の関連の検討」の研究計画について打合せを行った。

2. 平成20年12月3日 滋賀県自動車教習所谷口嘉男氏

「中高生の自転車利用」に関する調査データの「交通心理学研究」雑誌への投稿について、最終的な原稿の見直しを行った。また、本補助金の研究テーマである「自動車教習所における運転適性検査と運転技能診断の関連の検討」の今後の研究計画について、鏝氏を含めた打合せスケジュールの調整を行った。その中で、来年の日本交通心理学会沖縄大会での発表テーマとして、鏝氏と共に「メディアによる交通安全教育方法」を取り上げることを検討した。

3. 平成20年12月22日

① 中高生の自転車行動観察に関する基本方針 滋賀県自動車教習所谷口嘉男氏

② 悲しみの映像評価（優先課題） 以下、石川県加南自動車学校鏝基文氏

③ 教習記録とその後の違反・事故経験との関係分析

(ア)現在蓄積されているデータは、昨年の分析依頼文書に基づき、谷口が分析する。

(イ)「運転パフォーマンスとライフスタイルのよりよい変化を目指して」の分析を行う。

(ウ)検討事項

- 補習が多い教習生は事故が多い。
- 適性検査の攻撃性、状況判断力と事故とは関係ない。
- 適性検査に実効性はあるのか。
- 技能診断は主観的な要素を含むが、客観性を高めるにはどうしたらよいか。

③ 新しいドライブレコーダの活用 石川県加南自動車学校鏝基文氏

(ア)新しいドライブレコーダが発売されている。

①価格は約 45,000 円でこれまでのもの（十数万）よりかなり安価である。

②カメラ、ハンドリング、アクセル、ブレーキ操作などが記録できる。

③製造元は不明。韓国で製造されているらしい。

④日本での発売はあるディーラーが独占したがつている。

(イ)この機器を教習車に装着し、運転行動を記録することで、運転行動の客観的な測定が可能となる。

4. 平成 21 年 1 月 28 日 滋賀県自動車教習所谷口嘉男氏

① 「交通心理学研究」雑誌投稿原稿の見直し

「中高生の自転車利用」に関する調査データは、すでに「交通心理学研究」雑誌に投稿済みであるが、その一部データの訂正、及びそれに伴う本文原稿の見直しを行った。

② 日本交通心理学会沖縄大会の参加計画

6 月に開催される日本交通心理学会沖縄大会と日本・北欧交通心理学シンポジウムでの研究発表に関する打合せを行った。研究発表題目は「自動車教習所における運転適性検査と運転技能診断の関連の検討」とし、学会及びシンポジウムで来日する北欧の研究者(VTI 等)とも接触して情報交換を行うこととした。

5. 平成 21 年 2 月 9 日 石川県加南自動車学校鏝基文氏より運転適性検査と運転技能診断のデータ送付

データ総数 3,144 件（年齢、性別、出身地、視力、トータル、状況判断、動作の正確さ、動作の速さ、衝動抑制性、神経質、躁鬱、感情向上性、攻撃性、非協調性、自己顕示性、情緒安定性、場内、修検、路上、卒検、担当者、初講該当者 以上